

平成20年度

病害虫発生予察特殊報(第1号)

平成20年4月28日
神奈川県農業技術センター所長

病害虫名：トマトすすかび病

病原菌：*Pseudocercospora fuligena* (Roldan) Deighton

作物名：トマト

1 発生経過

- (1) 平成20年4月、当所病害虫防除部の定点ほ場において、施設栽培トマトの調査時に葉裏に灰褐色の斑点を生じた被害葉を確認した。症状は葉かび病に似ているが、顕微鏡で観察したところ、葉かび病とは異なる細長い分生子を確認した。
- (2) 当所農業環境研究部に同定を依頼した結果、*Pseudocercospora fuligena* (Roldan) Deighton によるトマトすすかび病であることが確認された。
- (3) トマトすすかび病は、2008年3月現在まで1府19県で確認されている。関東地方では2006年に茨城県、千葉県、2007年に群馬県で発生が確認されているが、本県で確認されたのは初めてである。

2 病徴

- (1) 病徴は葉かび病と酷似するが、葉裏の菌そうは、すすかび病の方が少し黒みが強い。
- (2) 葉に発病し、初期、葉裏に不明瞭な淡黄緑色の病斑が現れ、やがて灰褐色の粉状のかびを生じる。病斑はしだいに拡大して、円形あるいは葉脈に囲まれた不整形病斑となり、灰褐色～黒褐色に変わる。葉表は葉裏よりやや遅れて、淡黄褐色の病斑を生じ、かびを生じるが、葉裏に比べて少ない。
- (3) 被害葉は早期に垂下、乾燥巻縮して、全葉が濃緑褐色のかびでおおわれる。

3 発生生態

- (1) 糸状菌の一種で不完全菌類に属する。生育適温は26～28℃、分生子の形成適温は18～22℃、分生子の発芽適温は26℃前後である。
- (2) 被害植物の残渣で越冬し、翌年の伝染源となる。
- (3) 多湿条件で発病しやすく、密植、過繁茂、換気不十分の施設栽培で発病しやすい。
- (4) トマト品種の葉かび病抵抗性の有無に関係なく発病する。

4 防除対策

- (1) 葉かび病に準じた対策を行う。発病葉、被害残渣は伝染源となるため、ほ場外に持ち出し適切に処分する。
- (2) 密植、過繁茂、換気不十分な施設栽培で発生しやすいことから、施設内が多湿にならないように管理する。



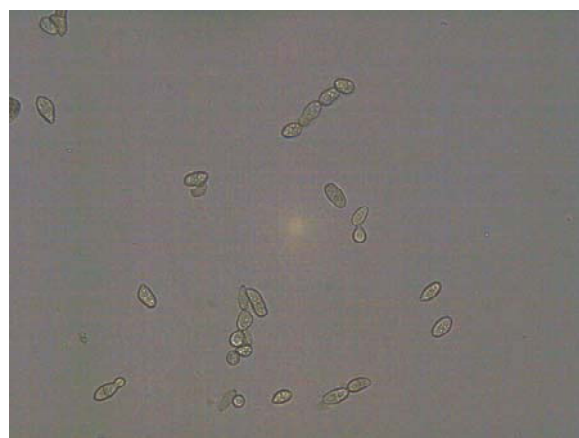
<葉の病徴（葉裏）>



<葉の病徴（葉表）>



<トマトすすかび病菌の分生子>



<参考：トマト葉かび病菌の分生子>

神奈川県農業技術センター
病害虫防除部

〒259-1204 平塚市上吉沢1617

TEL 0463-58-0333

FAX 0463-59-7411

テレホンサービス0463-58-6612

<http://www.agri.pref.kanagawa.jp/nosoken/boujo.asp>